

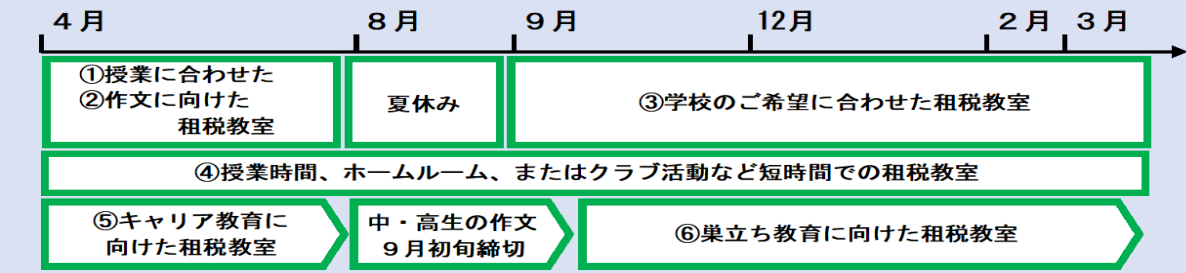
租税教室のご案内

新潟県及び各地区の租税教育推進協議会では、次代を担う児童・生徒に対し、国や地方公共団体の財政を支える租税の意義や役割を正しく理解していただくため、税務署や県・市町村職員のほか、税理士・法人会会員などを講師とした租税教室を開催しています。

時間の長短・人数の多少にかかわらず（授業時間、ホームルーム、またはクラブ活動など）講師派遣による租税教室を行っておりますので、お気軽にご相談ください。

なお、先生が租税教室を実施する際に使用する租税教育教材は、国税庁HPをご活用ください。
また、小・中学校用租税教育用副教材は、関東信越国税局HP内及び新潟県HP内に掲載されています。

【租税教室の開催例】



パワーポイントや講師用
マニュアルをご紹介します
います

ビデオライブラリー



租税教育用 動画



租税教室に関するお問い合わせ・お申し込みは、最寄りの税務署（総務課）または新潟・長岡税務署の税務広報広聴官にご連絡ください。

新潟税務署 税務広報広聴官 025-229-2108（直通）
長岡税務署 税務広報広聴官 0258-35-2074（直通）

租税教育だより

令和8年3月1日
第68号
発行人
新潟県租税教育
推進協議会会長
県教育長 太田勇二

「税」について楽しく学ぼう！



新潟税務署管内税務団体協議会主催「イータ君カップ(フットサル大会)」

11月8日（土）新潟市体育館において、新潟税務署管内税務団体協議会主催の「税を考える週間イベント」として、「イータ君カップ（フットサル大会）」を開催しました。

第4回目の開催となる当大会には、新潟市内外から16チームが参加し、熱い戦いが繰り広げられました。

試合の合間に、スポーツMCとして活躍する中村博和さんを講師に迎え、「身近な税」と題し、租税教室を行い、サッカーに関連した税金の使われ方などクイズを交えて説明したところ、多くの児童が積極的に手を挙げて回答するなど、大変活発に、また、楽しく「税」を学べる機会となりました。

中学生の税についての作文・高校生の税に関する作文～たくさんのご応募ありがとうございました～

県内中学校より7,115編、高等学校より2,347編の応募がありました。

中学生の「税についての作文」 ～国税庁長官賞～



「笑顔を守る宝物」

新潟市立横越中学校3年 中村 碧さん

私の家から車で十分位の所に大好きな祖母の家がある。近いので小さい頃から週末はよく遊びに行った。公園や海や山で遊んでもらったり、一緒に工作をやったり絵手紙を書いたりもした。祖母の絵手紙がすごく上手で、私の誕生日や体育祭など行事があるたびに届いた。私の両親もその絵手紙の大ファンだった。そして祖母は私が行くたびにとっても美味しい手作り料理を作ってくれるので毎週食べるのがとても楽しみだった。

そんな多彩でパワフルな祖母が二年前重い病気にかかった。骨が壊れていく病気で体中が痛い様子だった。手術を受け、即入院をした。そして、一年くらいの入院を経て祖母が家に帰ってきた。一年前とは全く別人のような姿だった。絵手紙を書く体力もなくなり、あんなにやる気に溢れていた祖母は何も手につかない状態になっていた。祖母は自分で家のことや自分のことをするのはとても難しく退院後は介護施設に通うことになった。母からショートステイは食事、入浴、排泄などの身体介護、機能訓練、レクリエーションや生活相談など様々なサービスが提供される場所だと聞いて私はとても安心した。

しかし年金で生活している祖父母にとって手術、入院、そしてショートステイと経済的にも大きな負担になるのではないかと心配になり、母に尋ねてみた。「入院や治療をするためには、本当なら何十万もかかるけど、医療費が人々の生活を圧迫することがないよう、高額になった利用費をカバーする高額療養費制度という制度によって負担が軽減するんだよ。介護施設や介護用品も、費用負担が過大にならないように税金が助けてくれるんだよ。」という母の話を聞いて、初めて医療費や介護施設費、介護用品などにもたくさんの税金

が活用されていることを知った。

一年前まで、もう前みたいに歩けないかもしれないと言われていた祖母が、たくさんの治療とりハビリを繰り返し、今は思っていた以上に回復し、前よりかなり元気に過ごすことができるようになった。「今日ね、介護施設の友達と介護士さんが私が施設の自由時間に書いた絵手紙を見て、すごく褒めてくれたの!。」と満面の笑みで話す祖母。介護施設の皆さんのおかげで、また祖母が絵手紙を書き始めた。私のために張り切って楽しそうにご飯を作ってくれることもある。毎日元気に笑う祖母を見て、病気になる前の祖母が戻ってきたように感じ、私はとても嬉しかった。

祖母も世の中のお年寄りの皆さんも、高額な医療費や介護サービスだったら、もう一度頑張ってみることを諦めていたかもしれない。税金は大切な人の快適な生活や生命を守ってくれる宝物だと思う。だからこれからは、そんな税金に感謝しながら、私もいつかしっかり働いて、税金を納められる人になっていこうと思う。

一日税務署長を
務めました。



「税に関する高校生の作文」 ～国税庁長官賞～

「米百俵の精神～税金に支えられた私たちの未来～」

新潟県立長岡高等学校2年 後藤 莓瑚さん

先日、国税庁ホームページの税の学習コーナーを見ていたときのこと。「年間教育費の負担額」という部分が目にとまった。公立学校の児童・生徒一人あたりが義務教育九年間と高校三年間の計十二年間で受け取る額は、約千二百三十万円であり、義務教育費国庫負担金と教育振興助成費（学校での教育の運営に使われる）を合計すると年間約四兆円程度の国の歳出が教育のために使われているという。調べていくうち、「多くの税金が教育に使われるのは、米百俵の精神と同じ考え方があるからだ」という考えが浮かんだ。

「米百俵の精神」とは、私の住む長岡市に幕末から伝わる故事である。戊辰戦争で焼け野原となった長岡藩に三根山藩（現在の新潟市西蒲区）から米百俵が見舞いとして送られてくるが、長岡藩の大参事小林虎三郎は米を食用にせず売却し、得た資金で国漢学校の新校舎を開校した、という話だ。小林虎三郎は、お腹をすかせた兵士たちに米を配ることよりも、教育のための資金にして人材を養成することに重きを置いた。すぐに利益や効果を得られることなく、教育に資金を使い将来活躍する人材を育てるという考え方は、現在多額の税金が教育に使われている理由と重なるのである。

私たちが教育を受けることでは、すぐには目に見える効果は得られない。今の私たちには社会に貢献したり、社会を変えたりする力はない。しかし、多くの人～顔も名前も知らない、どこに住んでいるかもわからない人～の納めた税金によって、私たちは教育を受けることがで

きている。目に見えないたくさんの人々に支えられて、教育を受けさせてもらっている。そう考えると、私たちが毎日教育を受けられるのは当然の権利などではなく、支えてくれている人々への感謝の気持ちを忘れてはならないのだと強く感じる。そして、私たちはいつか恩返しをしなければならないと。私たちが税金を納める側になったとき、教育を受けられたことで学んだこと、身についたことを生かして、社会に貢献していくこと、税を納めていくことこそが、私たちを支えてくれた人への恩返しなのだ。

米百俵の精神の話には続きがある。米を売ったお金でつくられた学校は、後に医学博士の小金井良精、海軍の山本五十六元帥などの、新しい日本を背負う多くの人物を輩出した。私たちも彼らのように、税金に支えられて得た学びを生かし、未来で活躍できる人になりたい。



「税に関する高校生の作文」 ～新潟県租税教育推進協議会長賞 優秀～



「使えない？支えたい。」

新潟県立新潟南高等学校 2年 椎谷 陸斗さん

「どうして捨てるの？味はちゃんとしてるのに。」それは、僕が新潟市近くの農家を訪れ、規格外のトマトやナスを見せてもらったとき、思わず口にした言葉だった。夏休み、学校の研究活動の一環で現地を訪ね、「規格外品」に関する話をじっくり聞いた。その日、日差しの下で冷たいトマトを手にしたとき、僕の中の先入観がゆっくりと揺らぎ始めた。「形が悪くなくても、味には問題ない。でも市場の基準から外れると、買い手もつかない。捨てるを得ないこともあるし、土へ返すしかない。でもその処理にも時間とコストがかかるんだ。」その言葉に僕は胸がつまる思いをした。学校やニュースでは見聞きしない「現場の合理と無駄。」農家の言葉には、単なる作業の話以上に切実な実態が込められていた。特に補助金制度、税金による支援という具体的な話が出てきたとき、自分の税に対する浅い理解が恥ずかしくなった。調べたところ、新潟県や三条市などでは規格外農産物の有効活用を推進するため、流通促進事業や給食活用プロジェクトが地方自治体の予算で実施されていることが分かった。加えて、新潟市では数百万円規模の農業機械や施設整備補助を行い、コスト削減や品質向上を支えているという事例もある。さらに農林水産省の「経営所得安定対策(令和7年度)」によると、米や麦、大豆等において収入が標準的所得を下回った場合、その差額の9割を補填するナラシ対策や、作付面積に応じて交付金を支払うゲタ対策があり、令和7年度には畑作物向け直接支払交付金が面積当たり約二万円から三

万円程度で支給されていることも明記されている。これらの制度はすべて、税金が財源となって運営されている。国税庁の「税の学習コーナー」にある通り、税金は公共サービスだけでなく、教育、福祉、産業支援など幅広く使われ、社会のインフラを支える血液的な存在であるという説明に合致する。その視点に立つと、僕の中の「税は国が勝手に取るもの」という存在論的な理解が根底から変わった。この体験を経て、税に対する僕の考えは変化した。税は単なる負担ではなく、地域の文化や産業、見過ごされがちな価値を掘り起こし、循環させるための仕組みだと気付いた。市場の基準から外れた野菜が、税による支援で給食や加工品へと生まれ変わる。そうした再発見が地域に新たな希望を生むことを僕は目の当たりにした。今後の社会には、税の使途に関する透明性ととともに、「どの価値を再投資するのか」という視点が必要だ。例えば、新潟の規格外品活用や寒冷地の豪雪対策など、地域特性に応じた柔軟な制度設計が求められるだろう。「規格外とわれてた野菜が、支援と工夫で新しい価値になる」という事実に触れたとき、僕は納税者としてではなく、社会の一員として「税による循環」に小さな誇りを覚えた。

中学生の「税についての作文」表彰

【新潟県知事賞】

粟島浦村立粟島浦中学校 3年 菊池 芙優さん 「走る、その先にある社会への恩返し」

【関東信越国税局長賞】

長岡市立宮内中学校 3年 間野 葵さん 「スーパーで見つけた税の役割」
佐渡市立新穂中学校 3年 杉坂 雪華さん 「夢をつなぐ税金」

【新潟県教育長賞】

上越市立直江津東中学校 3年 塚田 明莉さん 「私たちの生活と税金」

【全国納税貯蓄組合連合会会長賞】

津南町立津南中学校 3年 小野塚 詩さん 「税と医療～助けられた命～」

「税に関する高校生の作文」表彰

【新潟県租税教育推進協議会長賞 佳作】

新潟県立新津高等学校 1年 船浪 江恋さん 「税金で命を救う」
新潟県立十日町総合高等学校 3年 水落 優心さん 「誰かを助ける税金」

令和7年度 租税教育推進校等表彰

国税庁では、「租税教育推進校等表彰制度」に基づき、児童・生徒に対する租税教育の推進などで、特に功績のあった学校等に感謝状を贈呈しています。令和7年度は、次の学校等に感謝状が贈呈されました。

【国税庁長官表彰校等】 新潟市立亀田小学校

【国税局長表彰校等】 新潟県立巻高等学校

【税務署長表彰校等】

(小学校)

新潟市立荻川小学校

長岡市立宮内小学校

柏崎市立大洲小学校

阿賀野市立水原小学校

糸魚川市立下早川小学校

佐渡市立二宮小学校

(中学校)

三条市立第二中学校

魚沼市立湯之谷中学校

村上市立神林中学校

(中等教育学校)

新潟県立津南中等教育学校

(高等学校)

新潟県立新潟商業高等学校

新潟県立巻総合高等学校

(その他)

関東信越税理士会高田支部

ご紹介します！

租税教育の取組

県内各地区の租税教育推進協議会では、租税教室への講師派遣を行っています。
今年度実施した租税教室や租税教育イベントをご紹介します。

新潟県立三条高等学校

9月30日(火)、新潟県立三条高等学校において3学年を対象に、同校の卒業生でもある三条税務署の水倉総務課長を講師とする租税教室を開催しました。

講義は国や県の財政状況、税の仕組みや使い道について説明したほか、高校時代の話や後輩達へ熱いメッセージを送りました。

これからの社会に出る3年生にとって税の意義や役割をしっかりと理解する大切な機会となりました。



長岡大学

10月8日(水)新潟財務事務所が主催する寄附講義において、長岡税務署岩崎副署長が「暮らしと税」をテーマに講義を行いました。

税の役割や仕組み、財政の現状について説明し、学生たちは熱心に耳を傾けていました。

中でも、「年収の壁」の話は、アルバイトをしている学生にとって、大変参考になったようです。



新潟病院附属看護学校

未来の看護師さんたちへ！

新潟病院附属看護学校の1、2年生を対象に、長岡税務署の税務広報広聴官を講師に迎え、租税教室を開催しました。

今後、看護師などの医療従事者をを目指す学生たちは、税の役割や現状についての講義に真剣な表情で聴き入っていました。



新潟県立新潟高等学校

11月26日(水)、新潟県立新潟高等学校1年生360名を対象に、関東信越税理士会新潟支部の児玉秀明税理士による租税教室が開催されました。

授業では、脱税事例や講師自身の税務の職場での経験談を交え、税務コンプライアンスの重要性に触れ、また、税理士が事業者にとって非常に重要な存在であること、多様なキャリアパスがある点など税理士という職業の魅力について説明しました。

生徒たちは非常に熱心に聴き入り、「税の重要性」はさることながら、今まで漠然としていた「税理士」という職業が今回の授業で身近なものに感じられ、「進路選択の幅が広がった」と、大変好評でした。



糸魚川市立糸魚川中学校

9月11日(木)、上越地域振興局糸魚川収税課職員、糸魚川市役所市民課職員及び糸魚川税務署職員が講師となり、1年生120名を対象に租税教室を開催しました。

授業では、DVDの視聴やパワーポイントを使用して税の仕組みや役割、重要性などを学習し、税金クイズでは生徒たちが積極的に挙手し発言していました。

授業の最後に査察事案の紹介を行い、実際にあった脱税の手口を目の当たりにした生徒達からは驚きの声が上がっていました。



おぢやしごと未来塾

12月5日(金)、小千谷市内の中高生を対象とする48の企業・団体が参加するキャリア教育推進イベント「おぢやしごと未来塾」に小千谷税務署が出展しました。

税務職員の仕事や、「税の重要性」について説明し、参加した多くの中学生、高校生に租税教育や税の職場をPRする貴重な機会となりました。

